撰時抄

御文①

御書新版……172ページ13行目～173ページ4行目
御書全集……264ページ14行目～265ページ2行目

今、末法に入って二百余歳、大集経の「我が法の中において闘諍言訟して白法隠没せん」の時にあたれり。仏語まことならば、定めて一閻浮提に闘諍起こるべき時節なり。（中略）闘諍堅固の仏語、地に堕ちず。あたかも、これ大海のしおの時をたがえざるがごとし。

これをもって案ずるに、大集経の白法隠没の時に次いで、法華経の大白法の日本国ならびに一閻浮提に広宣流布せんことも疑うべからざるか。

現代語訳①

今は末法に入って二百年余りが過ぎ、大集経で「私が説いた教えの中で、争いや口論が起きて、白法が消えうせるだろう」と予言された時に当たっている。仏の言葉が真実であるなら、間違いなくこの世界に争いが起こるはずの時期である。

（中略）「闘諍堅固」と予言された仏の言葉は決してうそではなかった。まるで大海の潮の満ち干は、その時になれば必ず起こるようなものである。

このことから考えると、大集経で説く白法隠没の時に続いて、法華経の大白法が、日本国および全世界に広宣流布することも疑いないことではないか。

御文②

御書新版……173ページ12行目～17行目
御書全集……265ページ8行目～12行目

このこと一定ならば、闘諍堅固の時、日本国の王臣とならびに万民等が、仏の御使いとして南無妙法蓮華経を流布せんとするを、あるいは罵詈し、あるいは悪口し、あるいは流罪し、あるいは打擲し、弟子・眷属等を種々の難にあわする人々、いかでか安穏にては候べき。これをば愚癡の者は呪詛すとおもいぬべし。法華経をひろむる者は、日本の一切衆生の父母なり。章安大師云わく「彼がために悪を除くは、即ちこれ彼が親なり」等云々。されば、日蓮は、当帝の父母、念仏者・禅衆・真言師等が師範なり、また主君なり。

現代語訳②

このことが確実であるなら、闘諍堅固の時、日本国の王や臣下、さらには民衆に至るまで、仏の使者として南無妙法蓮華経を弘めようとする者を、罵倒したり、悪口を言ったり、流罪に処したり、打ちたたいたりし、さらにその弟子や従者たちをさまざまな苦難にあわせる人々が、どうして安穏であるだろうか。

このように言えば、愚かな者は、私が敵対する人々のことを呪っていると思うにちがいない。

法華経を弘める者は、日本国のあらゆる衆生の父母である。章安大師は「その人のために悪を取り除いてあげる者は、その人にとって本当の意味で親の存在である」（『涅槃経疏』）と言っている。それ故、私は、現在の帝王の父母であり、念仏者や禅僧、真言師らの師範であり、また主君である。